

荒れるマーケット 伝統的なポートフォリオは機能した？

ト

ランプ政権の動きに一喜一憂する展開のマーケット。分散投資が真価を發揮する局面と言えるだろう。今月はいくつかの伝統的なポートフォリオを使って、その効果を確認してみよう。今回取り上げた3つの手法の過去

5年間のパフォーマンスは、米国株のみに投資した場合よりも劣るが、ブレが少なく、最大下落率も抑制されている。もちろん、ここで取り上げたような単純な分散投資だけではなく、各資産の期待リターンや想定リスクに基づいてより多くの資産に分散することで、より強固なポートフォリオを構築することも可能だ。

自分にリスク許容度がどの程度あるのかは実際に経験しないと分からないとも言われるが、マーケットの下落に対し平常心を保つのは案外難しい。当面は神経質な展開が続くようなマーケット。この機会にポートフォリオの構築について考えてみてはどうだろうか。

M

A 60:40 ポートフォリオ

株式に60%、債券に40%の比率で投資する。ポートフォリオ運用の基本形とも言われる。

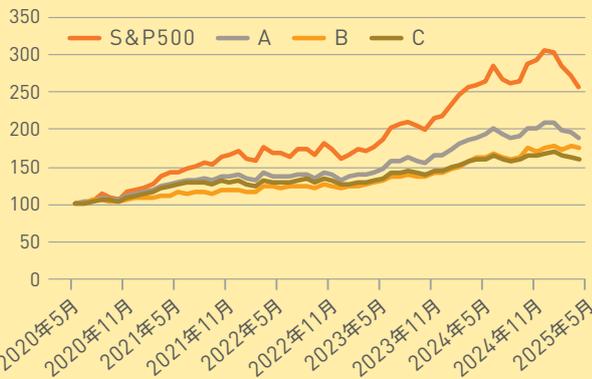
B 永遠のポートフォリオ

保守的なポートフォリオとして知られるもので、株・債券・金・現金に均等投資を行う。

C 財産3分法

本来は財産を有価証券・現金・不動産の3つに分けて管理するという手法だが、これを金融商品に置き換えて、株、債券、リートに均等配分するポートフォリオ。

■ 図表1 各ポートフォリオとS&P500に投資した場合のパフォーマンスの推移 (2020年5月=100)



■ 図表2 リスクリターン特性 (過去5年間)

	S&P500	A	B	C	
月間騰落率	最大	11.3%	7.6%	7.2%	7.0%
	最小	-7.1%	-5.5%	-3.3%	-4.9%
	平均	1.8%	1.2%	1.0%	0.9%
最大下落率	-15.8%	-9.8%	-4.6%	-6.5%	
リスク	4.6%	3.2%	2.2%	2.7%	
リスク比リターン	0.38	0.37	0.46	0.34	

※2 最大下落率は保有期間におけるワーストケース(その時点までの最高値からの下落率が最大のもの)

※1 図表1、2はインデックスファンドの月次パフォーマンスデータ(2020年5月~2025年4月)をもとに作図、算出。株式は世界株式、債券は先進国国債の円ベース、金は国内金価格、リートはリートに連動するファンドのデータに基づく。ただし取引コストは考慮していないため、実際の取引結果とは異なる

(出所) Bloomberg のデータをもとに当社作成

三菱UFJモルガン・スタンレー証券の 投資一任サービスを活用してみませんか？

不透明な投資環境下で資産運用について悩んでいる方もいるのではないのでしょうか。プロに運用をお任せする投資一任サービスを活用することで解決できるかもしれません。

当社ではご要望に応じて、少額から手軽に始められるタイプのものからオーダーメイドの運用が可能なものまで、さまざまなサービスをご用意しています。

お気軽にお取引店までお問い合わせください。

